

緊急 トップインタビュー

新型コロナウイルス

ともに
乗り越えよう

魅知国定席 花座（仙台市）

席亭 白津 守康さん(58)

新型コロナウイルスが経済停滞を招く中、活路を探る企業経営者に聞く企画。今回は東北唯一の寄席「魅知国（みちのく）定席 花座」（仙台市）の席亭、白津守康さん(58)です。

◇

一休館が続いています。

政府がイベント自粛を要請した2月下旬以降、客足は鈍りましたが、当時は「少し待てば再開できるだろう」と楽観視していました。しかし、寄席がある青葉区一番町4丁目の飲食店で3月下旬に集団感染が起き、期待は霧散。チケットが完売していた催しも全て中止しました。今は寄席を開ける時ではないと、5月16日までの休館を決断しました。

一舞台と客席の近さが客席の魅力ですが…。

うちは25畳ほどに40人が入ります。噺家（はなしか）の息遣いを間近に感じられるライブ感が強みです。し



苦しい時こそ
笑って前進

かし見方を変えれば、それは「密閉」「密集」「密接」そのもの。安心して気持ち良く足を運んでももらえる日まで「今は耐え時」と切り替えました。

—「暮らしに笑いは不可欠」が持論です。

「幸せだから笑うのではなく、笑えることが幸せ」なのではないでしょうか。だから寄席に人は呼べなくても、茶の間に笑顔を届け

ようと4月上旬、ネットの動画サイトに「花座チャンネル」を開設しました。1本当たりの視聴回数は300～600。想定以上の反響に手応えを感じています。みんな苦しい時です。でもだからこそ、笑いが大事。亡くなった名誉館長の桂歌丸師匠もそう言ってくれると信じて、音を上げずに前進を続けます。

information

「花座チャンネル」は下のQRコードで花座のホームページにアクセスし、視聴可能。10日午後1時からはお笑いコンビ・ニードルの漫才を有料（税込み1000円）で配信する。連絡先は花座事務局022(796)0873＝午前10時～午後5時＝。



企画・制作／河北新報社営業局